



第1回 九州SGHフォーラム開催へ向けて

H30 7月9日(月) @長崎ブリックホール

内容 (0) 長崎東高校 S G H の概要

(1) 開催のきっかけ

(2) プログラム・準備 (案内告知)

(3) 運営方針



構想調書

長崎県立
長崎東高等学校

S G H 構 想 図

世界の「平和と共栄」を目指し、
長崎から世界へ漕ぎ出す人材の育成

〔長崎の持つ教育資源〕

- ・ 被爆地として世界に平和の尊さを発信する取組
- ・ 海外との交流の歴史を背景に持つ文化
- ・ 他のアジア諸国と近接している地理的な特性
- ・ 環境保全の取組を展開している企業・行政の活動
- ・ 感染症等に関する先導的な熱帯医学研究



〔育成したい資質能力〕

- ・ 世界の平和を希求し、人類の持続可能な発展に寄与する精神
- ・ 日本への深い造詣を持ち、幅広く異文化を理解しようとする態度
- ・ グローバルな課題を自分のものとして捉え、その解決に向けて行動する力
- ・ 責任感や協調性などを含むリーダーシップとフォロワーシップ
- ・ 世界の人々に対して、自分の考えを効果的に伝える力



課題研究「グローバルスタディ」

研究テーマ




世界の「平和と共栄」について、長崎とつながる課題を把握し、その解決の手だてを考察・発信する。

長崎とつながる課題（選択）	国際平和の実現	医療支援の推進	水環境の改善
研究内容例	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣アジア諸国との関係の在り方 ・核兵器廃絶に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・途上国への医療支援の在り方 ・途上国の公衆衛生の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・海水淡水化技術での海外支援 ・水質向上技術と海水汚染対策
連携機関	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎大学(多文化社会学部、経済学部核兵器廃絶研究センター等) ・九州大学大学院 ・中国長崎総領事館 ・長崎県 ・長崎市 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎大学(医学部、熱帯医学研究所熱帯医学・グローバルヘルス研究科等) ・九州大学大学院 ・長崎県 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウステンボス(株) ・三菱重工(株) ・西日本流体技研 ・長崎大学(環境科学部、工学部、水産学部等) ・九州大学大学院 ・長崎県 等



世界の「平和と共栄」を目指し、長崎から世界へ漕ぎ出す人材の育成

3年間の研究の流れ

学年[学科]	1学年[普通・国際科]	2学年[国際科]	3学年[国際科]
教育課程上の位置づけ	・学校設定科目[ナガサキタイム] ・特別活動	・総合的な学習の時間 ・特別活動	
内容	認識 -長崎・再発見-	考察 -グローバル課題の解決策-	提言 -長崎から世界へ-
	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎とつながるグローバルな課題を発見する活動 ・留学生等との意見交換会 ・国内フィールドワーク ・SGH講演会 ・課題研究発表会Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次に把握した、グローバルな課題についての研究活動 ・国内・海外フィールドワーク ・SGH講演会 ・論文作成 ・課題研究発表会Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> ・論文作成 ・長崎東SGHフォーラム(最終発表) ・最終報告書(グループ別)の作成 ・成果の普及 
グループ型探究学習			

「グローバルスタディ」を学びの軸とした各教科の授業実践

アクティブラーニングを取り入れた授業を、全教科で計画的・継続的に展開

英語によるコミュニケーション能力の向上

研究成果や自分の考えを効果的に伝える英語力の向上

目指す成果(育成したい人物像)

グローバルな課題の解決に向けて積極的に行動できるリーダーの育成

将来的に、国際機関職員、研究者、国際貢献活動に積極的に取り組む企業人等として活躍



世界の「平和と共栄」を目指し、長崎から世界へ漕ぎ出す人材の育成

構想概要

課題研究「グローバルスタディ」

○長崎の持つ教育資源の活用

- ・被爆地としての発信力
- ・オランダ、東南アジア諸国との歴史的・地理的つながり
- ・先進的な熱帯医学研究 等

○アクティブラーニングの実践研究

○英語コミュニケーション力強化

研究開発の成果と普及状況

○国内4大学、海外6大学と連携

○ベトナム、アメリカ、シンガポールにおけるフィールドワークや連携機関訪問等

○ウイスコンシン大学と課題研究プログラムを共同開発

○アクティブラーニング研修会の開催

○県主催研究指定校報告会

○九州SGHフォーラムの開催(H30)

○探究型学習を推進する新たな事業を推進(県教委)

グローバルリーダーの育成状況

○平和や国際社会への貢献

- ・ユース非核特使に選出(H28、H29)、国連欧州本部を訪問
- ・クリティカル・イシューズ・フォーラム(CIF)への参加・発表(H28、H29)
- ・長崎海洋大使(日本財団)として英国に2名派遣(H28)
- ・平和教材を開発・国連に寄贈(H28、H29)、国連HPに掲載
- ・ケネディ駐日大使との意見交換(H28)

○表現力・英語力の向上

- ・県英語デパート大会優勝(H28)
- ・模擬国連(イェール・シカポール大学、ウイスコンシン大学)への参加
- ・高校生国際シンポジウム優秀賞2名(H27)
- ・CEFR・B1以上:SGH対象生徒の91%
- ・トビタテ!留学JAPAN参加(7名)

【評価方法】

- ベネッセ・GPS-Academicの活用
協働的思考力S・A評価:65%
- 独自ルーブリックの開発
- 校外の学修や資格を単位認定

管理機関の取組

- SGH支援事業で資金面の援助
- 長崎東高に国際科を設置(H27)
- 外国人講師1名・ALT2名配置
- 海外研修修了者の積極的配置
- CALL教室の設置
- シンガポール英語研修を実施(H27～)
- 知事部局と連携し、生徒の地方創生型探究活動を支援
- 課題探究型新規事業の実施

課題と事業の継続(持続可能性)

【取組継続のための方策】

- 同窓会を中心として教育振興財団を設立(H28)

【課題】

- 長崎大学への依存度の軽減
- 教員の指導力向上・負担軽減
- 批判的・論理的思考力の育成
- 活動継続のための予算確保
- 国内・海外大学との連携継続
- 他県、他校種への成果の普及
- 大学入試改革等への対応



課題

- ①長崎大学の全面的な協力
→依存度を徐々に減らし、教員が指導できる体制を構築
- ②併設中、県内高校への普及
他のSGH校等との交流
→中学3年で課題研究を開始
→他県や他校種への普及を推進
九州SGHフォーラムを開催(H30)
- ③教員の負担軽減
→業務の効率化(校務分掌再編)
- ④批判的・論理的思考力の育成
→アクティブ・ラーニングを推進
(「インタラクティブな授業」の実践)
→即興ディベート、ディスカッション
- ⑤カリキュラム・マネジメント
→個々の取組の関連性を高める
→教科横断型授業によるグローバルスキル開発
- ⑥大学入試改革等への対応

持続可能な取組に向けて

- ①教員の負担を軽減し、同様の効果を得られる手法を研究
- ②海外フィールドワーク等の継続
(ベトナムFW、アメリカアカデミックツアー、シンガポール修学旅行 等)
→保護者負担による継続は困難
→同窓会を中心とした教育振興財団を設立(H28)
- ③国内・海外大学等との連携継続
→現状と同様の連携は困難、新たな手法を模索(Skypeの活用等)
- ④海外研修や各種大会等での成果を検証
→さらに効果的な活動とするための連携先や活動内容を検討
- ⑤他のSGH指定校との連携
→共通する研究内容をもつ他校と連携し、互いに高め合うネットワークを構築



(1) 開催のきっかけ

鹿児島県立甲南高等学校主催

「高校生国際シンポジウム」への参加

- ・ **基調講演**
- ・ **プレゼンテーション**
- ・ **ポスターセッション**
- ・ **生徒交流会**
- ・ **表彰、講評**

(H27～H29年度)

3年間で教員と生徒 (高1のみ)
合計45名を派遣



(1) 開催のきっかけ

「高校生国際シンポジウム」参加生徒（本校） の感想（抜粋）

- ・ 審査員の先生方だけでなく、多くのSGH校の方々と意見を交換できたことによって、自分の知識の幅を広げ、新たな視点から物事を見始めることができるようになった。多くの人々と関わり、世界が変わった。
- ・ 国際シンポジウムでは、全国の高校生のプレゼンを聞いたり、交流でたくさん話したりでき、とても良い刺激になりました！
- ・ 全国には、とてもプレゼンの仕方が上手な人がたくさんいました。今回の経験から学んだことを生かして、ブリックではもっといい発表ができるように頑張ります。



(2) プログラム・準備 (案内告知)

0 管理機関との連絡・調整、会場予約 (H29 5月)
九州内 S G H 校へ打診 (連絡協議会等)

① 1次案内 (7ヶ月前)
H29 11月 管理機関 → 他県管理機関へ

② 2次案内：参加調査 (2ヶ月前)
H30 5月 長崎東高校 → 九州内 S G H 校へ

プログラムの確定

③ 最終案内 (1ヶ月前)
H30 6月 管理機関 → 他県管理機関へ
H30 6月 長崎東高校 → 九州内 S G H 校へ
S G H ホームページ

九州 S G H フォーラム 7/9 (月)

参加校の動き

予算計上

参加部門の確定
・プレゼン/ポスター
・生徒交流会
・パネリスト

参加者情報の送信
・氏名、学年、引率者
・研究テーマ
・パネリスト情報など



九州SGHフォーラム プログラム

前日 生徒交流会 7/8(日)16:30~18:00
九州内SGH校生徒54名

基調講演 長崎大学前学長 片峰茂氏

英語プレゼンⅠ (午前)

- ①大分上野丘 ②五ヶ瀬 ③鞍手 ④京都 ⑤福岡雙葉

英語プレゼンⅡ (午後)

- ⑥明治学園 ⑦長崎東 ⑧甲南

英語ポスター

- ①長崎東 ②佐賀農業 ③水俣

パネルディスカッション

- ・ 雙葉、明治、長崎東、済々黌、甲南

ファシリテーター
山口大学准教授
陳内秀樹氏
本校SGH運営指導委員



(3) 運営方針

① **生徒主体**の運営（高校3年生をホスト役とする）

- ・ 前日「生徒交流会」のMC
- ・ 司会進行、受付、来賓誘導、発表補助

② 「**想い**」の共有

テーマ：SGHで身につく力と将来への展望

③ **成果普及・成果共有**

- ・ 探究学習の手法、評価
- ・ カリキュラム など